

スペイン カキの成功を受け新たな競合相手の出現は想定のうち

[FreshPlaza 2025年9月30日](#)

この数年は収穫量が潜在能力を大きく下回る厳しいシーズンが続いていたが、今年はロホブリランテ品種のカキにとって「通常」の年になる見込みであり、生産量は17万トン程度と予想されている。このうち3万～4万トンが、「スケール川流域のカキ」として原産地呼称保護(PDO)の認証を受ける予定である。「スケール川流域のカキ」PDO管理団体の長であるシリロ・アルナンディス氏は、「近年、様々な問題に直面してきたが、幸いなことに今シーズンは悪天候や病害虫による大きな被害はないようだ」と語る。(以下「」は同氏の話)

スペイン農水産食料省のデータによると、スペインにおけるカキの栽培面積は近年減少傾向にある。「この傾向は、正確なデータが存在する原産地呼称保護の対象地域においても明確である。近年、登録栽培面積は実際に減少しており、特に個人登録の生産者、すなわち協同組合に属していない生産者において顕著である。協同組合の栽培面積の減少はそれほど大きくない。実際、協同組合は果樹園の収益性を確保する上で重要な役割を果たしている。協同組合に所属する生産者の面積は安定しており、我々が生産者に提供できる収益性が、この傾向を左右するであろうと考えている。」

アナンディス氏は、生産コストが近年一貫して上昇しており、特にカキ生産者にとっては追加の処理が必要となっていると言う。「我々が近年経験してきた大幅なコスト増を生産者だけで負担することはできず、必然的にこれらのコストは顧客に転嫁せざるを得ない。コスト増に対する市場の反応については、近年、生産量が不足していたため需要に応えられず、とりわけEU域外の一部の国々では供給の継続性を確保することがほぼ不可能であったところ、今年は通常の水準に近い数量が見込まれることからより円滑な展開を期待しており、特にそのことが取引先や消費者との関係を回復する助けとなることを願っている。」

カキ産業にとって輸出は非常に重要であり、アルナンディス氏によると、過去には輸出量が減少した年もあったが、それは常に供給不足が原因であった。「これまでEU市場に重点を置いてきたが、我々の本来の目標は、既に進出している全ての市場において浸透を図るとともに、新興市場及び未進出の市場で拡大を図ることである。中国における状況も、近年の生産不足の影響を受けている。我々には克服すべき課題があり、当然ながらそれを達成したいと考えている」

同PDO管理団体は、他国における生産量の継続的な増加に対応するため、認証された製品が持つ付加価値について改めて強調している。「我々の地域における生産の拡大及び欧州市場でのカキの商業的成功を踏まえれば、競争は当然予測されていたことである。新たな競争相手の出現は予想されたものである。我々のカキは世界で唯一原産地呼称を有するものであり、我々は常に、自らの製品及びブランドを品質面のリーダーとして位置づけるべく取り組んできた。」

「管理団体の創設から25年以上にわたり、我々は他の産地と比べて主導的な地位の確立を目指して、生産と販促の両面で継続的に取り組んできた。これまでの取り組み、ブランドが築いた信頼、そして地域のロホブリランテ品種の比類のない品質が、小売業者と消費者の間で我々をトップに押し上げたと確信している。」

近年は気候対応と病害虫対策の両面で困難な状況が続いている。「気候に関しては対応の余地が限られているが、病害虫対策については現在大きな脅威となっているものを制御することが課題である。カキの将来を確保するためには、現在及び将来的に現れる可能性のある病害虫に対する効果的な対策が必要である。とりわけ、効果的な植物保護資材の使用許可を得るために、様々な行政機関の支援が不可欠である。販売面では、カキの消費と認知度に関して、まだ取り組むべきことがあると考えており、Persimon®ブランドと原産地呼称を引き続き推進していく。」

実際、2025年には、スペイン、フランス、カナダ及びブラジルにおける欧州プログラムやスペイン国内でのブランド促進キャンペーン並びにその他の国での特別事業等の販促キャンペーンに200万ユーロ以上を投資する予定である。「これは、管理団体に加盟する協同組合によるこれまでで最大の投資であり、これにより製品の販促において新たな一步を踏み出したいと考えている。」

執筆者: ホエル・ピタルク (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)